

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591300011		
法人名	有限会社 富喜		
事業所名	グループホームありがとう		
所在地	山口県美祢市大嶺町東分1020-2		
自己評価作成日	平成23年8月14日	評価結果市町受理日	平成24年1月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年9月29日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の認知症の症状の進行を緩和し、安心して日常生活を送ることができるよう、入居者様の心身の状況を踏まえ、妥当適切に行います。入居者様が、真実願っていることに一つでも多くの明かりが灯せるようそれぞれ思いやりをもって、安全でその人らしく希望を持って自立した生活が営めるよう支援しています。  
また、入居者様一人ひとりの人格を尊重し、入居者様がそれぞれの役割をもって家庭的な環境の下で、日常生活を送ることができるよう配慮して行い、入居者様が真実願っていることに一つでも多くの明かりが灯せるようそれぞれ思いやりをもって、家庭的なやり方で、安全でその人らしく希望を持って自立した生活が営めるよう支援しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の日々の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるよう、家庭的な環境の中で一人ひとりができることを大切にされた支援をしております。家事(食事の準備、片付け、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、縫い物や雑巾づくりなど)や畑づくり、写仏、習字、カラオケ、体操、読書、ボール遊びなど、多くの活躍できる場面づくりをされています。地域のふれあいサロンへ事業所の場所を提供され、参加された地域の高齢者(20名)やボランティアと利用者が交流されたり、地域交流会を開催し、園児や地域住民、家族、利用者との交流を図られる他、法人のデイサービスと合同で「ありがとう祭り」を行なわれ、多くの市民の参加を得られるなど、地域に開かれた事業所になるように積極的に取り組まれています。職員に看護師を確保し、服薬管理や主治医との連携、感染症の対応、事故発生時に備えての研修や訓練の指導をしております。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を理解し、普段からの入居者への声掛け・介助時に実践している。	「歩み入る人にやすらぎを 訪れる人にほほえみを 出会えた人にありがとう」という事業所理念をつくり、掲示し、月2回のミーティングで理念の確認をして共有し実践につなげている。利用者や地域の人に対しておもてなしの心を大切にして接し、地域に開かれた事業所になるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふれあいサロンや福祉の市などの地域の行事に積極的に参加している。	地域の夏祭りへの参加や事業所主催の地域交流会で地域の人と交流している。地域のふれあいサロンへの場所の提供を行い、地域の高齢者(20名)、ボランティア、利用者が交流している。法人のデイサービスと合同で行う「ありがとう祭」では、市全域へのポスティングで周知を図り、多くの人の参加を得て地域との交流を深めている。利用者は日常的に散歩に出かけ、地域の人と挨拶を交わしたり、野菜や花をもらうなどのつきあいをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高校・幼稚園との交流会、ボランティア等の実施。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	代表者が意義について説明し、項目ごとに聞き取り、管理者がまとめている。	運営者が職員に評価の意義について説明し、管理者が項目について聞き取り評価としてまとめているが、項目の理解が十分とはいえない。	・項目の理解と活用
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月1回の開催で入居者・行事等の報告、風水害・火災避難訓練等の報告等の実施	民生委員、自治会長、市職員、地域包括支援センター、利用者、家族、管理者、職員等のメンバーで2ヶ月に1回開催し、事業所の状況や活動報告をし避難訓練への取り組みなどについて報告している。	・会議の進め方、取り組み方の検討 ・地域メンバーの拡大

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類等は高齢福祉課に直接持っていく、常日頃からお互い情報交換等をするように配慮している。	市の担当者とは電話や出向いて相談等をし、助言を得るなど協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム長が地域包括等が開催している研修等で正しく学び、職員と一緒に検討し理解をして実践している。	内部研修で学び、職員は正しく理解して抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。日常のケアの中でスピーチロックについて特に注意をして行わないよう運営者が指導している。玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	会議等で虐待防止の研修を行い、虐待をしない・させない・見過ごさないを考え日々サービスをしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や書籍にて職員は理解しているが、現在の入居者の中では必要と思われる人はいない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時を含め、本人・家族にそのつど十分な時間をかけて丁寧に説明を行い理解納得を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも相談・意見等を言ってもらえるような環境を整えています。	家族の来訪時に面談を行ったり、電話等で家族からの意見や要望を聞いている。相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議を設け職員の提案を検討し、業務に反映できるものは反映させています。	月2回のミーティングで職員から意見を聞く他、運営者が常に聞くようにしている。記録様式の改善など、職員の意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の状況を勘案し、休日確保しやすきように配慮するなど働きやすい環境作りに努めています。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会があり、職員の希望等にも配慮して進めている。	内部研修は月1回、20分程度テーマを決めて全職員参加で実施している。外部研修は情報を把握して、職員に知らせ、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。運営者や管理者は働きながら学べるように日常の業務の中で職員の指導をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表又は管理者は県内外の勉強会に参加し、他施設と情報交換や交流を持っている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始より、ご本人ご家族のご意向、思い、不安等を話せる環境を心掛け、スタッフ全体でアプローチし、不安の軽減、関係づくりに努め、不安ない生活に向けて支援している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人やご家族より、在宅での様子や困っていることなどをしっかり聞き、要望をこれからの生活で実現できるようアプローチや関係づくりをしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いの中からニーズを見極め、自宅と同様の毎日が送れるよう柔軟な対応をしている。ご家族、ご本人にとってより良い環境があれば、他事業所等と連携し、他のサービス機関につなげている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの一員として、職員、利用者ともに生活を通して、役割や生きがいを感じることでできる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間を特に設けず、いつでも面会が出来る環境にしており、ご本人とご家族の関わりがいつでもとれるよう支援している。また、ご様子を文書でお知らせし、面会時では分かりにくい変化もお知らせしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のサロンの会場とし施設を使用したり、地域行事に出かけたり、地域の中での生活を維持できるようサポートしている。受診や買い物には、出来るだけご家族とともに外出し、不安な生活を送れるよう支援している。	知人、友人、親戚などの訪問や、手紙の交換、電話、家族との外泊、自宅周辺の散歩、馴染みの美容院の利用、馴染みのかかりつけ医への受診など一人ひとりに応じて、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しい方が入居された時には、席替えを行うなど入居者同士の関係づくりやつながりが作りやすい環境づくりを行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も介護保険を含めた総合的な相談を受けることが出来ることを伝え、継続的な関わりが持てるよう心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中にある要望や希望を見落とさず、朝、夕の申し送りや会議でスタッフ全体で把握するよう努力している。困難な場合でもご家族からの情報をもとに、ご本人の視点で検討している。	フェースシートの活用や日常の関わりの中での会話や様子、個別に居室で聞きとった思いや意向など個人記録に記入し、職員間で共有し、把握に努めている。困難な場合は家族と相談し、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮し、馴染みの関係を築く過程のご本人さんやご家族の聞き取りのほかにも、毎日の生活の中にあるレクリエーションでの会話、他者との会話から生活歴を把握するよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事や睡眠、入浴等一人ひとりの生活パターンを把握し、一人ひとりに生活を大事にしている。また、出来ることは続け、役割作りにつながる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に関して、担当者会議やスタッフ会議を通して、話し合いの場を設けている。サービス導入時には、ご本人かご家族にもサインを頂戴し、了承了解を得ている。毎月のモニタリングを元に柔軟な計画作成を心掛けている。	アセスメントシートを活用し、月1回のモニタリング、3ヶ月ごとのアセスメントを行い、月1回のサービス担当者会議で話し合い介護計画を作成している。1年で見直しをしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間記入の個別記録をもとに、日々の暮らしの様子、例えば、食事、水分摂取量、排泄状況等職員全体で把握、確認している。朝夕の申し送りで気づき等口頭でも補足している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や、ご家族のご要望を出来る限り柔軟に対応し、施設の中に家族が休める場所も設けている。通院等の支援も医療連携のもと、不安ない毎日が送れるよう支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で安心して生活できるよう、地域の方、ボランティア、消防署等と協力しながら支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅生活同様、かかりつけ医への診察へ家族やスタッフと出かけることが出来る関係づくりをしている。また、緊急時の対応を協力医やかかりつけ医と確認しており、安全な対応が図れるよう支援している。	利用者一人ひとりのこれまでのかかりつけ医への受診や往診を受けられるよう支援している。専門医が月1回往診する他、緊急時の対応など適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいつでも対応できる環境におき、介護職は、日々の変化を伝え、指示を得ている。看護師も主治医より必要に応じて指示を得ている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には、ホーム長、看護師がカンファレンスには必ず同行し、主治医からの指示、病棟での様子等情報収集につとめている。入院中には、ケアマネやホーム長も適宜、病状観察に出向き情報収集に努め、病院ご家族と連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご高齢であり、重度化した場合のことなど、ご本人のお気持ち等確認しながら、ご家族と話し合っている。協力医や主治医とは、急変時いつでも対応できるよう連携をとっている。	契約時に事業所の方針を家族に説明して同意を得ている。実際に重度化した場合は、その都度かかりつけ医や家族等で話し合い方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルを作成し、職員全員が手順どおり行えるようになっている。事故報告書は会議でも取り上げ再発しない環境になる様努めている。ウイルス対応等は看護師が指導することにより、分かりやすく実践できるよう指導している。	ヒヤリはっと報告書に記録し、その日の内に対応を話し合い、会議で対応策を検討し、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。初期対応や応急手当について看護師が指導して、全職員が対応できるように訓練を行っている。事故防止対策マニュアルや緊急連絡網を整備している。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応マニュアルを作成し、年2回防災避難訓練を行っている。地域にもお声かけをし、訓練に参加してもらっている。	年間2回、夜間想定を含めて、防災避難訓練を地域住民の参加を得て実施している。地域との協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者との関係が成熟し、お互いに慣れてきて、年長者として、経験豊富な方々であることを忘れず、お声かけには、注意している。	内部研修を実施し、職員は利用者に尊敬の念を持って接しており、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になることがあれば、運営者や管理者が注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の積み重ねの中で、信頼関係を構築し、何気ない会話の中のニーズを見落とさないよう努力している。個別に、買い物の日を設ける等職員がゆっくり関わられる時間を持っている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等においても時間を決めず、一人ひとりに柔軟に対応している。入浴も毎日入浴できる環境にしており、ご本人の体調や気分を確認しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室にも施設に出向いてサービスをしてもらったり、パーマ等もかけに町の美容室に出かける支援をしている。衣類も自身で選び、アクセサリ等も選んでつけることが出来るようお声かけしている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理の下ごしらえや後片付け等一人ひとりの力に合わせ職員と一緒にいき、楽しい食事になる様にしている。	昼食は法人デイサービスからの配食を利用し、朝夕は、事業所で食事づくりをしている。利用者の好みを考慮した献立で、買物、配膳、味見、盛り付け、下膳、食器洗いなど利用者のできることを職員と一緒にやっている。食事は職員も同じものを一緒に食べながら、利用者が楽しんで食べられるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のメニューは入居者の皆さんと一緒に考え、好みにあった物を提供できるよう支援している。また、水分量、食事の摂取量等は不足しないよう、一日を通して、職員が把握し、記録し、適宜提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前、カタパラ口腔体操を職員と一緒にやっている。食後の口腔ケアにおいても、毎回、職員見まもり支援のもと、口腔ケアをしている。夜間は、義歯の洗浄を行い、保管している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い、排泄の把握をしている。尿意、便意等あられる方が多いため、トイレ誘導し、安全に排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、毎日ヨーグルトを提供したり、食物繊維を多く含む食材を食事に取り入れる等気をつけている。ただ、低残渣食の方や食品アレルギーに方も入居しておられるため、個々に対応し、食事だけでなく、運動等取り入れ働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴できる環境にしており、本人の意思や体調で柔軟に対応できるようにしている。個浴の特殊浴槽のため、身体状況が不安になられた場合でも、安心して入浴できる環境にしている。	入浴は毎日13時30分ごろから17時ごろまで可能であり、一人ひとりの体調や希望、タイミングに合わせて、ゆっくり入浴できるように支援している。利用者の殆んどが、毎日入浴し、2日に1回は全員が入浴している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具等も馴染みのもを持ち込んでもらい、安心できる居室作りをしている。日中の活動も体調に合わせて参加できるよう支援し、安眠、良眠出来る環境づくりを心掛けている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が、薬の情報を把握している。入居者が体調、服薬等に不安なことは、直接看護師が入居者に説明し、安心して服用できるよう支援している。服薬も職員が必ず確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活が張りのある充実あるものになる様、生活歴や今までの役割等を引き続きできるよう畑仕事や家事活動、レクリエーション等に取り入れている。	利用者は食事の準備や片付け、掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、縫い物や雑巾づくりなど自分でできることを行なっている。写仏、習字、読書、折鶴づくり、ゴミ袋づくり、畑づくり、カラオケ、体操、しりとり、ボーリング、ボール遊び、カード遊びなど楽しみながら行なっている。職員は利用者の暮らしが楽しみや張り合いのあるものになるように支援に努めている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候等に応じて散歩や買い物ドライブ等に臨機応変に出かけることが出来るようにしている。ご家族との時間も大切にもらい、お孫さんの結婚式や家族旅行、外食等、施設が提供するだけでなく、自ら出かけることが出来るよう支援している。	散歩、買い物、神社参り、季節の花見、紅葉狩り、夏祭りなど戸外に出かけられるように支援している。家族と外出したり受診時に外食を楽しんだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人や、ご家族と相談しながら、お金を預かっている方もあるし、自身で管理しておられる方もある。買い物の際に、安心して使えるよう見まもり支援をしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら、電話等が使用できるよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースでは、季節感を感じれ、穏やかに過ごせるよう切り花等を入居者の皆さんに生けてもらったりしている。清潔感のある環境を心掛けている。	明るく広々とした共有空間(リビング、フロアー、キッチン)があり、テーブルやソファを数箇所に配置し、利用者が思い思いにゆったり過ごせるように工夫している。季節感のある花を生けたり、調理の音や匂いもあり、五感刺激への配慮をして居心地良く過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者全員が座れるソファースペースで思い思いの手芸をしたり、読書をしたり、話したりとリラックスできる環境づくりをしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心できる居室になるよう、馴染みのものをご家族やご本人に持ち込んでもらっている。	テレビ、冷蔵庫、タンス、机、椅子などの家具や生活用品が持ち込まれ、習字や折鶴などの自分の作品や、人形、写真などを飾って落ちついてその人らしく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の皆さんが、安心して楽しく生活できるよう、生活環境を整えるよう努めている。目印等を邪魔にならないよう配置し、尊厳を持って生活が送れるよう支援している。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームありがとう

作成日：平成24年1月15日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	・項目の理解が十分にできていない。	・項目の理解をし、しっかり活用してより良い支援に繋げていく。	・毎月の会議で職員全員と一緒の自己評価に取り組みを行なうことで、各項目への理解を深め職員に求められていることを考えより良い支援に繋げていく。	12ヶ月
2	5	・推進会議のメンバーが一定である。 ・会議の内容は活動報告等の報告になっている。	・運営推進会議メンバーの拡大 ・会議の進め方や内容の充実	・GH合同運営推進会議として家族・ボランティア・消防・警察の方等にも会議に積極的に参加してもらい状況報告、ありがとう祭りやデイ合同交流会等の打ち合わせ、外部評価報告等で意見交換をして支援に活かしていく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。